

平成29年度 自己評価計画書

							石川県立金沢桜丘高等学校	
重点目標	具体的取組	担当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考	
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、志望する国公立大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	教務 全教職員	昨年度の授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価（よくあてはまる）の平均は前期45.6%、後期47.8%であった。	【努力指標】 全教員の授業評価において、左記項目のA評価を増やす。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	Dの場合、改善策を検討する。	授業評価で調査する。	
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	NSH推進 進路指導 教務 学年	生徒の学習に対する主体的な姿勢を全学年において身に付けさせる必要がある。昨年度の全学年生徒対象の学校評価において、「独自の学習にも取り組んでいる」生徒は15%、「授業や課題には積極的に取り組んでいる」生徒は33%であった。また、自らの進路を見据え、1・2年次の家庭学習時間確保が重要である。昨年度、家庭学習時間が目標値（学年+1）に達した1・2年生は前期43%、後期50%であった。	【成果指標】 生徒が自らの進路実現のためにどのような力が必要かを考え、主体的に学習を進めている。	自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。	(ア)+(イ)の合計が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)等で調査する。
				【成果指標】 家庭学習時間が学年の目標値に達している。	家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	家庭学習時間調査により集計する。	
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	NSH推進 外国語科	英語による実践的コミュニケーション能力の育成を図り、定着度の指標としてGTECを定期的に受検している。昨年度の2年生は12月の受検で1年次12月と比較し、63点の伸びがあったが、年によりばらつきがある。	【成果指標】 生徒の英語による実践的コミュニケーション能力が順調に伸長している。	1年次12月に受検したGTECの本校平均スコアに比べ、1年後の2年次12月に受検するGTECの本校平均スコアの伸びが、 A 60点以上 B 50点以上 C 40点以上 D 40点未満	Dの場合、改善策を検討する。	12月のGTECの結果で集計する。	
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	進路指導 教務 学年 教科	昨年度は東大、京大にそれぞれ1名が現役で合格し、難関10大学には18名が合格した。高い志を持たせ、個別指導を早期から実施した結果である。また、国公立大学にも192名が合格した一方で、金沢大学合格者は52名で、目標の60名には届かなかった。	【成果指標】 ア 難関大学合格者数 10名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国公立大学合格者数 180名以上	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	Dの場合、進路指導体制を見直し、改善策を検討する。	合格実績で集計する。	
⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	生徒指導 学年 各部顧問	全ての部活動において週1日以上、休養日を設定するようにしており、定着してきている。また、3点固定（起床、家庭学習開始、就寝）を図るためにも下校時刻の遵守は重要だが、平日の19時以降校内に残っている生徒も見受けられる。	【努力指標】 全ての部活動において週1日以上以上の休養日を設定している。	週1日以上以上の休養日を設定している部活動が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	Dの場合、会議等で学習と部活動のあり方を再確認する。	顧問に対するアンケートで調査する。		
			【成果指標】 生徒が下校時刻を遵守している。	下校時刻を遵守している生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。		

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識など人としての基本を身に付けた、心身ともに逞しい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	生徒指導総務	本校生の挨拶・服装等がきちんとしていることについては高い評価が与えられているが、まだまだ十分とは言えない生徒も一部見受けられる。昨年度の学校評価において、「よくあてはまる」と答えた生徒・保護者・教員の平均は32%であった。	【成果指標】 生徒は、誰に対しても積極的に挨拶をしており、服装容儀もきちんとしている。	・積極的に挨拶をしている ・きちんとした頭髪・服装をしている この2つの点について (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない	(ア)の% 40%以上 A 35%以上 B 30%以上 C 30%未満 D  Dの場合、指導方法を検討する。	学校評価(教員・保護者・生徒)で調査する。
	② 交通安全教室、自転車マネー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒指導総務	東金沢駅から本校までの通学路に全教員が交代で立ち、登校指導を実施している。登校中の事故を防ぐためにも毎朝、余裕を持って登校するよう生活全般にわたる指導を展開していく。昨年度の学校評価において「いつも守っている」と答えた生徒は54%であった。	【成果指標】 生徒は交通ルールを遵守している。	生徒は、自転車に乗車するときは交通ルールを (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない	(ア)の% 60%以上 A 55%以上 B 50%以上 C 50%未満 D  Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
	③ 生徒の健全な心を育み、一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる、明るくさわやかな校風の樹立をさらに進める。	相談 生徒指導 保健 学年	各課や学年が連携を密にすることによって、生徒が学習における悩みやいじめなどの人間関係のトラブルから不登校にならないように、相談しやすい雰囲気をつくるよう心がけ、生徒が悩みを抱え込まないように、また、いじめの未然防止、早期解決に向けて、さらに風通しのよい学校づくりを目指す。	【成果指標】 生徒が、学習における悩みや人間関係(いじめ等)に関する悩みを学校に相談することができる。	本校は学習における悩みや人間関係(いじめ等)に関する悩みを相談しやすい (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない	(ア)+(イ)の合計が 90%以上 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満 D  Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)で調査する。
	④ 生徒面談シートを活用し、PDCAサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	生徒指導 学年	時間の使い方を振り返るときに、ポイントの1つとなるのがスマートフォンの使用時間である。本校では昨年度、1・2年生で45.2%の生徒が1日1時間以内であった。中には使用時間が3時間を超える生徒もおり、学習に少なからず影響を与えている。生徒の主体的な学習態度の確立が今後の課題である。	【成果指標】 生徒は家庭において自立的にスマートフォンを使用しており、受験を控えている3年生はもちろんであるが、1・2年生においても使用時間は1日1時間以内である。	1・2年生において、家庭でのスマートフォン使用時間が1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(生徒)等で調査する。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	図書 学年	ビブリオバトルなどの催しも行いながら、生徒に対して、新しくなった図書館の利用を働きかけているところである。昨年度の貸出冊数は延べ1232冊であった。	【成果指標】 生徒が一人1冊以上の本を図書館から借りる。	年間貸出冊数が A 1500冊以上 B 1250冊以上 C 1000冊以上 D 1000冊未満	Dの場合、改善策を検討する。	3月に集計する。

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
3 校は「文武両道」を実践するため、教員自らが資質向上に励み、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	全職員	会議の効率化や分掌業務の見直しを行い、各教員の生徒と向き合う時間の確保に努めている。NSH推進課・進路指導課・教務課・各学年がさらに連携を密にし、生徒の進路実現に資する取組を展開していく。昨年度はNSHとして「共通理解があり、しっかりと学校運営がなされている」と答える教員は25%であった。	【満足度指標】 めざす学校像についての教職員の共通理解のもと学校運営がなされている。	いしかわニュースーパーハイスクールとして (ア) 共通理解があり、しっかりと学校運営がなされている (イ) ある程度共通理解があり、学校運営がなされている (ウ) あまり共通理解がない状態で学校運営がなされている (エ) 共通理解がない状態で学校運営がなされている	(ア)の% 40%以上 A 30%以上 B 20%以上 C 20%未満 D  Dの場合、分析および改善の検討を行う。	学校評価(教員)で調査する。
	② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに若手教員の早期育成を目的とした研修を行う。	教務 進路指導 保健 相談	昨年度はアクティブ・ラーニング(A・L)の研修に加え、特別支援教育についての研修も行った。引き続き研修会の機会を確保し、今日的な教育課題に対する組織的な対応につなげていきたい。	【満足度指標】 研修に取り組むことにより専門性と指導力が高まり、以後の教育活動に役立てることができたと感じられる。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない	(ア)+(イ)の合計が 80%以上 A 70%以上 B 60%以上 C 60%未満 D  Dの場合、改善策を検討する。	学校評価(教員)で調査する。
	③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。	生徒指導 各部顧問	「文武両道」を校是として、部活動の活性化を図っている。昨年度は北信越等のブロック大会以上に運動部7、文化部4が進出した。	【成果指標】 各部活動が日々努力し、北信越大会以上に進出する成果をあげる。	北信越大会以上の大会に参加した部活動が A 15以上 B 12以上 C 10以上 D 10未満	Dの場合、改善策を検討する。	部活動の実績で集計する。
	④ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。	総務 教務 生徒指導 学年 情報	昨年度の3S歩行では、保護者の参加協力者が過去最高の511名にのぼるなど、他の桜高祭やPTA総会等の学校行事を含め、4300名余りの保護者の方に来校いただいた。また、ホームページの年間アクセス件数も20万件を越えており、保護者のみならず、地域の方、本校受験を考える中学生などが大きな関心を持って本校を注視していることがわかる。新校舎完成が一段落した本年度も保護者の方、地域の方等とのつながりを大切にしていきたい。	【成果指標】 保護者が子どもと学校への理解を深めるため、学校が企画する行事に積極的に参加する。	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満  行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式	Dの場合、学校行事の内容やPR方法を検討する。	各学校行事の際の来校者実績で集計する。
				【成果指標】 本校ホームページをこまめに更新し、アクセス数を増やす。	年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 20万件以上 B 18万件以上 C 16万件以上 D 16万件未満	Dの場合、改善策を検討する。	アクセスの実績で集計する。